

(E)-[¹¹C]ABP688や[¹⁸F]PM-PBB3 PETを受けた皆様へ

量子科学技術研究開発機構では、FTLD/ALSスペクトラムにおける代謝型グルタミン酸受容体サブタイプ5密度や脳内タウ・アミロイド蛋白病変の分布を定量的に測定し、異常蓄積蛋白-神経伝達障害-臨床症候連関の解明を目的とする研究を行っております。

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] FTLD/ALSスペクトラムにおける脳内神経伝達と脳内異常蛋白病変および臨床症状の関連性についての研究

[実施期間] 許可日 ~ 2022年3月31日

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 放射線医学総合研究所

[研究代表者] 脳機能イメージング研究部 島田 斉

[共同研究機関] 名古屋大学 脳とこころの研究センター

※外部機関に個人を識別できる情報が提供されることはありません

[研究の目的] 前頭側頭葉変性症や筋萎縮性側索硬化症の患者さんにおけるグルタミン酸の状態や、脳内の異常たんぱく質の蓄積を調べることを目的としています。

[研究の方法・データの利用方法]

●対象となる方々

下記の研究にて(E)-[¹¹C]ABP688や[¹⁸F]PM-PBB3 PET検査を行われた方

- ①放射性リガンド[¹⁸F]PM-PBB3の脳内タウイメージング製剤としての有効性及び安全性に関する研究
- ②[¹⁸F]PM-PBB3を用いた神経変性疾患におけるタウ蛋白病変と臨床症状の関連性についての研究
- ③脳内タウPETイメージングを用いた統合失調症と前頭側頭型認知症の共通病態の同定に関する研究
- ④脳内ホスホジエステラーゼ10Aおよび脳内タウのイメージングによる双極性障害の背景病態に関する PET研究

●利用する情報及び利用方法

年齢、性別、今までの病気の経過、診察所見

検査所見（心理検査結果、採血結果、MRI画像、[¹¹C]PiB画像、[¹⁸F]PM-PBB3画像、(E)-[¹¹C]ABP688画像）

※別途実施済みの研究データを使用しますので、新たな質問や検査の必要はありません。

[個人情報の取り扱い]

お名前や個人情報がでることは一切ありません。利用する情報からは個人を直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も研究対象者の方を特定できる個人情報は利用しません。（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。）

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（又は代理人の方）は、いつでも申し出いただけますが、できるだけ下記の期間に[問い合わせ先：窓口]にお申し出くださるようお願い致します。データ解析に使用して個人情報と切り離されてしまった情報は取り除けないことがあります、個人情報が表に出ることは一切ありません。

- 2019年9月までに検査を受けた方：2020年3月31日まで
- 2019年10月以降に検査を受けた方：検査後半年以内

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

量研機構量子医学・医療部門QST病院臨床研究支援室

電話；043-206-4713 平日： 9：00 ～ 17：00